第 15 講 【近代編】アメリカの発展とヨーロッパの再編
PART3 東方問題

Chapter 1　ロシアの南下政策とクリミア戦争

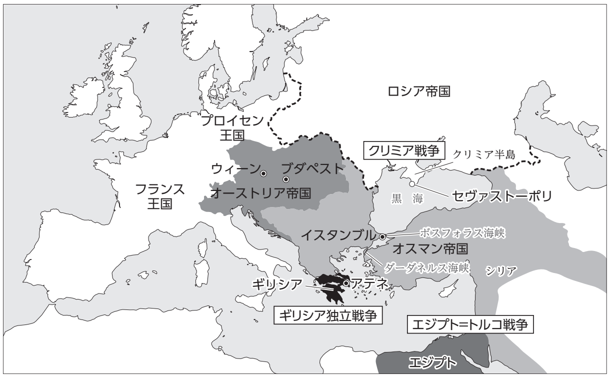
目標
イギリスとロシアによる東方問題の背景を理解しよう。
クリミア戦争の結果，ロシアの南下政策が陥った状況について学ぼう。

1　東方問題

①東方問題

A　19 世紀，オスマン帝国内でスラヴ人など，諸民族の独立の動きが高まる

B　オスマン帝国の民族問題にヨーロッパ列強が介入して争い，国際情勢が不安定になる



東方問題の位置関係

C　ロシアは，穀物の販路として黒海から地中海に抜ける〔　　　　　　　　〕を進め，エジプトからインドへの交通路を確保するイギリスなどと対立

→オスマン帝国を巡るヨーロッパ列強間の国際問題を，**東方問題**と呼ぶ

②ギリシアの独立

1821 年　バルカン半島で〔　　　　　　　　　　　　　　　　〕がおこる

→イギリス，フランス，ロシアがギリシアを支援して参戦

1829 年　ロシアとオスマン帝国が講和条約（**アドリアノープル条約**）を締結

→オスマン帝国が，ギリシアの独立を承認

→ロシアが，黒海と**ダーダネルス・ボスフォラス両海峡**の自由航行権を獲得

1830 年　〔　　　　　　　　　　　　〕で，ギリシアの独立を国際的に承認

2　エジプトの台頭

1805 年　〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕が，エジプト総督に就任

1825 年　**ギリシア独立戦争**でオスマン帝国に援軍を送る

※見返りに**シリア**の領有とエジプト総督の世襲権を要求し，オスマン帝国が拒否。

1831 年　第一次〔　　　　　　　　　　　　　　　　〕勃発

※ロシアがオスマン帝国を，フランス，イギリスなどがエジプトを支援。

※エジプトが**シリア**を占領。

1833 年　オスマン帝国とロシアが秘密協定を締結

※オスマン帝国がロシアに**ダーダネルス・ボスフォラス両海峡の通行権**を認める

→ロシアの**南下政策が前進**し，列強が警戒を強める

1839 年　第二次**エジプト＝トルコ戦争**勃発

※フランスがエジプトを支援。エジプトの強大化を警戒するイギリス，ロシアなどがオスマン帝国を支援した。

1840 年　講和会議〔　　　　　　　　　　　〕開催

※ムハンマド＝アリーに総督位の世襲を認め，シリアからの撤退を要求した。

1841 年　５か国海峡協定が結ばれ，全ての外国軍艦の両海峡の通行が禁止される

→ロシアの**南下政策が失敗**

3　クリミア戦争

1853 年　〔　　　　　　　　　　　　〕勃発←聖地管理権問題によりロシアがギリシア正教徒保護を口実に開戦

※ロシアを牽制するイギリス，フランスが，オスマン帝国を支援して参戦。

1855 年　**セヴァストーポリ要塞**の攻略

※クリミア半島のロシアの軍港が，イギリス・フランス艦隊に攻撃されて陥落。

※看護師**ナイティンゲール**が戦地で活躍。

1856 年　ロシアが敗北。〔　　　　　　　　〕で，黒海の中立化が決定

→ロシアの**南下政策が挫折**

まとめ

イギリスはエジプトからインドへの交通路として，ロシアは穀物の販路として地中海への進出を図り，両国は衝突した。

クリミア戦争の結果，パリ条約で黒海の中立化が約束されると，ロシアの南下政策は失敗した。

Chapter 2　南下政策の挫折

目標
ロシアがバルカン半島でどのように南下を進めたのかをおさえよう。
露土戦争の結果，東方問題がどのように決着したのかを確認しよう。

1　パン = スラヴ主義

① 1870 年代，オスマン帝国のバルカン半島では，ロシアが唱える
〔　　　　　　　　　　　　　　　〕が盛んになり，諸民族の独立運動が活発になる
→スラヴ民族の統一と連帯を目指した運動で，1848 年にスラヴ民族会議が開かれた
②ロシアがスラヴ人の民族意識をあおって**南下政策**を再開

スラヴ叙事詩

2　露土戦争の勃発と南下の失敗

①露土戦争
1875 年　オスマン帝国が，ボスニア・ヘルツェゴヴィナのスラヴ系民族の反乱を弾圧
1877 年　〔　　　　　　　　　　　　　　　〕（露土戦争）←ロシアがスラヴ民族の保護を口実にオスマン帝国に宣戦し，オスマン帝国を破る
②ロシアとオスマン帝国の講和
1878 年　講和条約〔　　　　　　　　　　　　　　　〕を結ぶ

A　オスマン帝国から〔　　　　　　　　　〕,〔　　　　　　　　　　　〕,

〔　　　　　　　　　　　　　〕が独立

B　〔　　　　　　　　　　　〕の領土が拡大し，ロシア保護下の自治国となる

→ロシアの**南下政策**が前進。これにオーストリア，イギリスが反発

③ベルリン会議

1878年　ドイツ首相〔　　　　　　　　　　　〕が調停役となり，**ベルリン会議**を主催

→〔　　　　　　　　　　　　〕が結ばれる

A　**サン＝ステファノ条約**を破棄

B　**ブルガリア**の領土が縮小され，オスマン帝国支配下の自治国となる

→ロシアの**南下政策**が失敗。以降，ロシアは中央アジア，東アジアで勢力を拡大

C　**セルビア，ルーマニア，モンテネグロ**の独立が国際的に承認される

D　オーストリアが，**ボスニア・ヘルツェゴヴィナ**の行政権を獲得

E　イギリスが，**キプロス島**の統治権を獲得

サン＝ステファノ条約によるバルカン半島の勢力図

まとめ

パン＝スラヴ主義で，バルカン半島のスラヴ人の独立心をあおり，南下を進めた。

ロシアの南下が一時成功したかにみえたが，ベルリン条約でロシアの進出が抑えられ，南下が失敗した。

第 15 講　PART 3　確認問題

1 オスマン帝国からの独立を求めて戦争をおこし，1830 年のロンドン会議で独立を承認された国はどこか。

① セルビア　② ブルガリア
③ ギリシア　④ モンテネグロ

2 フランス軍撤退後にエジプト総督に就任し，近代化政策を推進した人物はだれか。

① スレイマン 1 世　② ムハンマド = アリー
③ アウラングゼーブ　④ オスマン = ベイ

3 第一次エジプト = トルコ戦争でオスマン帝国を支援し，ダーダネルス・ボスフォラス両海峡の通行権を認められた国はどこか。

① オーストリア　② イギリス
③ フランス　④ ロシア

4 ロシアがギリシア正教保護を口実に，1853 年にオスマン帝国に対しておこした戦争はどれか。

① ロシア = トルコ戦争　② 解放戦争
③ クリミア戦争　④ 北方戦争

5 1870 年代にオスマン帝国支配下のバルカン半島で盛んになった動きはどれか。

① 革新主義　② パン = スラヴ主義
③ 諸国民の春　④ 大ドイツ主義

6 露土戦争に敗れたオスマン帝国が，1878 年にロシアと結んだ条約はどれか。

① サン＝ステファノ条約　② カトー＝カンブレジ条約
③ ネルチンスク条約　④ アドリアノープル条約

7 列強の調停役として，1878 年にベルリン会議を主催した人物はだれか。

① メッテルニヒ　② ディズレーリ
③ ビスマルク　④ タレーラン

8 1878 年に締結された，ロシアの南下政策を最終的に挫折させた条約はどれか。

① ユトレヒト条約　② ロンドン条約
③ パリ条約　④ ベルリン条約

第 15 講　PART 3　確認問題 解答

1 解答：③　**ギリシア**の独立は，1830 年のロンドン会議で国際的に承認された。

2 解答：②　**ムハンマド＝アリー**は 1805 年にオスマン帝国のエジプト総督に就任すると，エジプトの近代化を推進した。

3 解答：④　**ロシア**は 1833 年にオスマン帝国と相互援助条約を結び，ダーダネルス・ボスフォラス両海峡の独占的な通行権を獲得した。

4 解答：③　ロシアは，オスマン帝国内のギリシア正教保護を口実にオスマン帝国に宣戦した。クリミア半島が主戦場になったこの戦争を，**クリミア戦争**という。

5 解答：②　**パン＝スラヴ主義**はスラヴ民族の連帯と統一を目指した動きで，19 世紀後半のバルカン半島で盛んになった。ロシアはこれを南下政策に利用した。

6 解答：①　**サン＝ステファノ条約**によって，セルビア，ルーマニア，モンテネグロの独立と，ロシアがブルガリアを保護下に置くことが認められた。

7 解答：③　1878 年のベルリン会議は，ドイツの首相**ビスマルク**が調停役となって開催された。

8 解答：④　サン＝ステファノ条約を破棄して結ばれた**ベルリン条約**でロシアの南下政策が挫折した。